二ノ堰 と 二の堰親水公園

写真は、二の堰親水公園と寒河江市の中心部に向かって流れる二ノ堰を撮影。

親しみやすく、みんなに愛される公園にするため、二の堰親水公園の「の」は平仮名で表記されている。

人と紡ぐ

二の堰親水公園との新しい絆

寒河江市民の憩いの場

寒河江市には「二ノ堰」と呼ばれる総延長23㎞の用水路があり、寒河江川の水を市の中心部を通って農地に運んでいる。その始まりは、約六百年前、大江広元の子孫、寒河江城主8代時氏公と9代元時公が城を改築するにあたり、外堀に大量の水を引くために造った水路と伝えられている。

平成6年には、水路の一部を改修し「二の堰親水公園」が整備され、市民の憩いの場となった。これを機に、施設管理者の寒河江川土地改良区が中心となり、市民団体や市内の企業等18団体527名（令和5年4月1日現在）が参加する「グラウンドワーク二の堰」を立ち上げ、地域が一体となり清掃活動やイベント等を行うようになった。

子どもや大人、住民や企業、様々な垣根を越えて、「二の堰親水公園」は愛され守られてきたのだ。

「グラウンドワーク二の堰」 体制図

NEW！！

【企画立案部門】

二の堰親水公園活性化推進協議会

公園の利活用に向けたイベントや新たな管理方法等を実働部門に提案

ワーキングチーム

万人に愛される二の堰親水公園の新たなあり方について検討

企画を提案

【実働部門】

市民団体や企業等

定期的な清掃活動や施設の維持管理、施設の PR 活動や各種イベントの主催等

５月にイベントを開催！
ネイチャーゲームを楽しむ親子

コロナの影響

令和２年以降大流行した新型コロナウイルスは、「グラウンドワーク二の堰」の活動にも大きな影響を与えた。

これまでの大人数での清掃活動やイベントがほとんど開催できなくなり、２年以上十分な管理が行き届かなくなった。結果、施設の老朽化が進行し、市民と「二の堰親水公園」との繋がりも希薄になってしまった。

二の堰親水公園との新しい絆

このままでは、「二の堰親水公園」が守れなくなると危惧した「グラウンドワーク二の堰」は、これまでの実働部門だけの体制から、新たに企画立案部門を設置。Ｗｉｔｈコロナとなり、これまでの活動の踏襲ではなく、新たな展開に向け公園の利活用等について企画し、提案する「二の堰親水公園活性化協議会」を立ち上げたのだ。

協議会の提案は、農家や企業の若手、子育て世代のママさん等のメンバーで構成されたワーキングチームの意見が取り入れられている。昨年、ワーキングチームでワークショップを行い、市内外の人から「二の堰親水公園」に親しみを持ってもらえるよう散策マップを作成した。今年の５月では、このマップを活用したイベントが公園内で開催され、多くの親子連れで賑わった。今後も様々なイベントを企画していくそうだ。

「二の堰親水公園」とたくさんの新しい絆が今紡がれている。